

B枝は下垂したりねじれたりしない

C 細葉 葉や花は総て互生する

D 細葉 葉裏はやや白味がある

E葉は被針形-広被針形が標準

F側脈は裏凸する 若葉は有毛、裏中脈は多毛 (中脈除く)成葉表は後無毛 新枝は有毛

G葉は鋸歯縁;洋紙質;裏側脈は細く細脈は平坦 托葉は鋭頭被針形、有柄 (中脈除く)葉は両面無毛

[カワヤナギ節=コリヤナギ節]

H新枝に微毛密生 微毛残る(特に片側に残る) 毛は前年枝にも所々残る 葉裏は多毛 無毛

(SGOHKTY,道本四、川畔)(低木-小高木;葉5細)【31カワヤナギ】

新葉は両面毛密生;毛は早落性ですぐ落ちる 若葉は両面有毛 ほぼ無毛

葉表はほぼ無毛、中脈は微毛多 ほぼ無毛か微毛残

葉裏はやや多毛 ほぼ無毛、中脈は毛やや密生 ほぼ無毛

裏白味あり 表濃緑、やや艶あり;乾くと暗褐色

中脈は両凸;表は側脈微凸-ほぼ平坦;裏側脈は細く低い明凸;2次細脈はやや水平方向に出る

低波鋸歯-ひら鋸歯;乾くと縁狭く裏へ反る

葉は倒被針形-広被針形-線形、50-160mm、巾5-20mm;Y長葉タイプと短葉タイプがある

葉は倒形がでる;葉は5細型;中央以上に最広部あり

葉柄は微毛多(特に上側) 微毛残る 2-15mm

托葉は線被針形、鋸歯縁、1脈;基部に腺なし大きな場合腺少数密集;有柄

新葉の側縁は裏側に軽く弧状に反る(標本でオノエヤナギと誤認注意)

新枝に微毛密生 微毛残る(特に片側に残る);托葉痕は小さい 毛は前年枝にも所々少し残る 芽に毛密生

(出葉後に新葉がほどけはじめると、側縁が裏にやや弧状に反り、押し葉ではキヌヤナギ節の新葉と同様にみえる場合がある;この性質は多くの他種にも普通にみられ、キヌヤナギ節における新葉の側縁が裏側に強く「」の字状に巻込むのとは異なり注意を要する;山口<長谷川氏に教示受け精査した>)

(M18;ほつれ始めた葉縁は少しの時期軽く外旋するので、標本ではときどき間違った同定を見受ける)

(成葉は先広がりの方が特徴;Y先端近くの方が巾が広い;R図では上半から漸尖頭)

(H;エゾノカワヤナギに極近いが、特にはっきり異なる点は、今年枝に灰細軟毛が密生すること、花柱がはるかに長いこと、子房の柄も長く顕著なことである)(Y;晩秋に濃黄色で遠くから識別可)(Y;長葉タイプと短葉タイプがある)(C;エゾノカワヤナギとカワヤナギの分類上の違いは雌花にあり、花柱、柱頭の違いが記されるが、一般的には区別が難しい)(M68;春先の葉は毛多く、成葉では鋸歯あり全く無毛で裏灰白)

H本年枝の細毛は疎生で、早落し早く無毛になる 小枝は無毛 成葉は両面無毛

(SGOHY,道・青森、川畔)(大低木-小高木;葉5細)【30エゾノカワヤナギ】

若葉は両面軟毛すぐ無毛 葉は両面無毛

葉表は緑やや艶;裏は淡緑、少し白帯る

側脈は裏に凸出せず

波状鋸歯

成葉は被針形-線形、50-160mm、5-15mm

葉柄3-15mm;表細毛、裏無毛

托葉被針形、10-22mm、有柄、遅くまで残る

本年枝の細毛は疎生で、早落し早く無毛になる;小枝は無毛